

## 長野県出身プロ野球選手（番外編）

上原 昇（2組）

プロ野球セ・リーグは9月28日、読売ジャイアンツ（以下巨人）が4年ぶり39度目のリーグ制覇をして、10月16日からのクライマックスシリーズへ駒を進めました。新監督の阿部慎之助（1979年生）は2001年ドラフト1位で巨人に入団し、20年間巨人のホームベースを死守した名捕手でした。

2年連続Bクラスで低迷していた巨人を、守りを重視したステディな手綱さばきでマネージしたのは捕手出身ならではの見事なものでした。筆者（上原）が読んだ記事に阿部監督が「今季は巨人の捕手は昨年活躍した大城抜きでいく。特に昨年出番のなかった小林の起用でチームに落ち着きが出て来た。投手と捕手との間（ま）が良くなった」とコメントしているのは阿部でなければ言えない台詞です。



吉沢岳男さん

さて、当HPで長野県出身プロ野球選手について何回か紹介してきましたが、今回は番外編として、偶然にもみんな捕手という3人について調べてみました。

一人目は吉沢岳男選手です。1933年生まれ、松本市出身、松商学園卒、1954年に中日に入団、62年に近鉄、69年に中日に復帰。野球界を退いてすぐの71年、37歳という若さで亡くなっています。

生涯安打は710本と成績は平凡ですが、投手リード（インサイドワーク）に優れ、特に若手投手を安心して投げさせることでは最高の女房役とされています。

中日で大活躍した名投手、権藤博（1938年生）はその自著のなかで「61年、中日入団した時、吉沢捕手がブルペンで球を受けてくれ、大いに助けてもらった」と感謝しています。62年、中日が吉沢を手放したと聞いた当時の巨人の川上監督は「しめた」と喜んだそうです。

二人目は桃井進選手です。1958年生まれ、佐久市出身、佐久東中から丸子実業高校（現丸子修学館高校）卒、電電信越を経て80年ロッテに入団、88年まで在籍していましたが出場機会に恵まれず引退。



桃井進さん

ポジションはキャッチャーで生涯安打数は2で終わりました。桃井はその後の経歴は興味深いものがあります。現役引退後、89年からはプロ野球の審判員となり、その後地元に戻り、政治家に転身し、長野県県会議員に当選して1期務めています。現在は長野俊英高校の野球部監督とのことです。桃井の存在を教えてくれたのは高校の同級生で野球に詳しい地元在住のM君でした。M君の叔父さんはプロ野球の審判員で活躍した有名な人です。(と言えはすぐに誰か分かってしまいが・・・)

三人目は柳沢裕一選手です。1971年生まれ、松本市出身、松商学園から明治大学へ進学。明大では92年春季リーグで優勝、全日本メンバーに選ばれるなど活躍。93年ドラフト2位で巨人に入団、オリックス、中日を経て、06年に現役を引退した後は楽天のバッテリーコーチを務めています。

ポジションは捕手で、プロ通算安打数は67本、04年にはプロ入り唯一の初アーチを記録しています。



22 捕手 柳沢 裕一

柳沢裕一さん

柳沢も記録を読むと、投手の調子を見抜く能力に長けていて、特に中日時代はブルペンを守る裏方として存在感を示していたようです。同郷でしかも松商学園の先輩後輩、ポジションも同じキャッチャーの吉沢と柳沢に通じるものを感じます。現在は独立リーグ・ベースボール・チャレンジ・リーグ信濃グランセローズの監督を務めています。

以上、3人の長野県出身の元プロ野球選手を紹介しました。3人とも成績上は目立った活躍はしていませんが、プロの裏方でしっかりと生きてきたことが分かりました。その中に、長野県人の気質を伺い知ることができたような気もしています。

(2024年10月10日記)

以上